

## 工学部7学科を理工学部理工学科に改組

2016年(平成28)4月

常三島地区理工系は、1991(平成3)年の大学院工学研究科博士後期課程設置以降、25年振りに全面的な改組を行った。2016(平成28)年4月に、総合科学部総合理数学科及び社会創生学科環境共生コースに、生物工学科以外の工学部各教育組織が融合し、理工学部となった。今世紀のボーダーレスなグローバル化と、地域と社会が抱える諸課題に応えるため、とりわけ大学の理工系にはイノベーションの創出を担う大きな期待が寄せられる。そのため、本学でも理工系の学部改組は必須として2014(平成26)年頃から改革に拍車がかかった。改組後の学部は、イノベーション創出人材を養成するというミッションを遂行するため、従来の専門の枠にとらわれず科学技術の両輪となる理学と工学が融合したセンスを備えた人材輩出を目的とした。そのため、新学部は理工学部理工学科の体制とし、受験生は理工学科を構成するコース・系に優先順位を付して入試に臨む。学生

は入試の結果により仮配属され、2年次進級の際コース系に本配属される。大学入学が最終目標の一つのように、中には1年次で気持ちの緩む学生もいる。そこで、1年次の履修状況を加味して本配属する仕組みとし、常に学びを意識しながら学生生活も謳歌して欲しいと配慮した。同時に教育カリキュラムでは、STEM(ステム)という科学技術人材養成の基本4科(科学・技術・工学・数学)を1年次の理工全学生に学ばせる。さらに、留学やインターンシップなど、実社会の科学技術の趨勢を肌身で感じる機会を持てるよう、約4割の履修生を対象に6年一貫履修の制度も設けた。学部4年次に大学院履修科目の先取り履修を可能とし、生じた時間を上記の学外体験にあてることができる。また、卒業研究でも、学生は所属コース外の教員に指導を受けられ、多様性のある教育・研究に勤しむことを可能とした。



Faculty of  
Science and Technology  
Tokushima University

